ベジフル SAGA （2026 年 11 月号）　栽培管理（果樹病害虫）

11 月になりました。先月に引き続き露地ミカンでは果実腐敗対策、落葉果樹では収穫後の防除対策の実施時期であるほか、ハウスミカンではビニル被覆前のミカンハダニ対策を行う時期です。収穫前の防除も、次作に向けた防除も、どちらも重要な作業ですので、確実に実施しましょう。

「露地カンキツ」

●果実腐敗（緑かび病等）対策

樹上や地面の腐敗果は重要な伝染源になるため、見つけたら早急に園外に持ち出し適切に処分してください。薬剤は、収穫７～10 日前にベンレート水和剤 4,000 倍とベルクートフロアブル 2,000 倍を混用して散布してください。それぞれの単用散布では効果が落ちるため、必ず混用してください。

なお、果実腐敗の原因となる病原菌は、主に果皮の傷口から侵入するため、収穫の際は以下の点に気を付けて、果実に傷をつけないよう丁寧に取り扱ってください。

・降雨直後や朝の結露時は果皮が濡れて傷つきやすいため、乾いてから収穫する
・収穫かごやコンテナの中に、枝葉や小石が混入しないよう注意する
・果実の収穫作業は必ず二度切りで行う
・地面に落とした果実、傷のある果実は出荷用果実と区別して処分する
・コンテナに果実を入れすぎない
・黒点病の発生が多い樹や園の果実は軸腐病が発生しやすいため、他の果実とは区分して収穫・貯蔵する

●ミカンハダニ

今年は発生が多く、長期予報でも暖かいとされていることから、11 月も引き続き発生が多いと予想されます。園内をよく観察し、発生が確認されたら 10 月号のミカンハダニ対策の薬剤を参考に、収穫前日数を確認して散布してください。なお、繰り返しお伝えしていますが、薬剤抵抗性の発達を避けるため、同一系統の薬剤の使用は年１回とし、昨年使用した系統の薬剤は使用しないでください。

「ハウスミカン」

●ミカンハダニ

露地栽培と比較して施設栽培はハダニが増殖しやすく、毎年防除に苦慮されている方も多いかと思います。ミカンハダニの被害を防ぐためには、まずはビニル被覆時点でミカンハダニの密度を極低密度（可能な限りゼロ）に抑えておくことが重要です。

ビニル被覆の１カ月前を目安に、ハーベストオイル 200 倍、またはエコピタ液剤 200 倍等の気門封鎖剤をかかりムラがないように丁寧に散布してくだい。なお、ハーベストオイル 200 倍のミカンハダニでの使用時期は 10 月～11 月なので 12 月以降は気門封鎖剤で対応してください。また、気門封鎖剤は殺卵効果が低い、もしくは無いものが多いため、防除効果を高めるために 10 日間隔で２回散布してください。

ビニル被覆直前または直後には、コロマイト水和剤 2,000 倍、オマイト水和剤 750 倍、モレスタン水和剤 1,000 倍のいずれかを散布してください。

ミカンハダニ対策として、天敵の導入も効果的です。ただし、天敵はその特性を理解した上で適切に使用しないと効果を十分発揮することが出来ませんので、特に初めて使用する予定の方は、必ず事前に指導機関に相談してください。また、天敵の入った『天敵製剤』は外国から輸入されるため、注文してから手元に届くまで時間がかかります。希望する放飼時期に間に合わせるために、早めに資材を注文してください。放飼時期の２週間前頃までに申し込むことが望ましいとされていますが、納品にかかる具体的な日数は事前に確認してください。

なお、天敵を放飼する時はミカンハダニの密度を抑えておくことが重要です。そのため、放飼前に薬剤による防除を行ってください。また、殺虫剤、殺菌剤ともに薬剤によっては天敵に影響が大きい剤があります。放飼後は天敵に影響の少ない剤を選んで散布することはもちろん、放飼前に散布する薬剤についても天敵への影響日数を確認して使用するようにしてください。薬剤による天敵への影響については、日本生物防除協議会のホームページ上（https://biocontrol.jp/）で公開されていますので参考にしてください。

ナシ

●黒星病

先月に引き続き、翌年春の発生源となる鱗片への感染を防ぐ重要な時期です。デランフロアブル 1,000 倍、キノンドーフロアブル 1,000 倍、パスポート顆粒水和剤 1,000 倍、チオノックフロアブル 500 倍などを 10～15 日間隔でかかりムラのないよう丁寧に散布してください。樹上に残っている葉が 2 割以下になった時点で防除を終了します。

また、罹病した落葉も翌春の重要な伝染源となるため、落葉は園外に持ち出すか、トラクター等を利用して土中にすき込むなど適切に処分してください。特に本年発生した園では必ずこの作業を行ってください。

●白紋羽病

樹勢が低下している樹や早期落葉している樹の有無は、本病に感染している可能性があります。症状を見つけやすい今の時期に園内をよく観察し、疑わしい樹を確認してください。疑わしい樹を見つけた場合、必ず株元を掘って根部を確認してください。株元の根部に白い菌糸が付着していれば本病に感染していると考えられます。このような木には目印を付けておき、休眠期にフロンサイドSC 500倍を1樹あたり100L潅注処理してください。薬剤の効果は2年程度持続しますが、それ以降は再発する可能性があるため、2年経過した後は定期的に根部を掘って再発していないか確認してください。再発していれば、再度潅注処理を行いましょう。なお、本病の症状が激しく樹勢の低下が著しい場合には、完全な樹勢回復は見込めないため、植え替えが必要になります。

また、発病樹周辺の未発病樹もすでに感染しているか、今後感染する恐れがあるため、必ずフロンサイドSC　1,000倍の潅注処理を行ってください。

また、苗木を植え付ける際にも必ずフロンサイドSCの潅注処理を行ってください。特に、本病の発生により植え替える場合は、土壌の入れ替えを行ったうえで潅注処理を行ってください。

「ブドウ」

●ブドウトラカミキリ

先月号でお伝えした通り、これまで11月の防除として紹介していたトラサイドA乳剤は登録失効となったため使用しないようにしてください。

「キウイフルーツ」

●かいよう病

本病は収穫後から春までが主要な感染時期であるため、収穫直後から定期的に薬剤を散布する必要があります。収穫終了後から発芽前までは、ＩＣボルドー66Ｄ 50倍等の銅剤を1カ月間隔で散布してください。また、本病原細菌は、収穫、落葉、せん定等の傷口から感染するため、収穫後、落葉後、せん定の前後にも必ず薬剤を散布してください。